

ヤステが大量発生した場合の対策

- ▶近年、長崎市内において、台湾原産の外来生物「ヤンバルトサカヤステ」と考えられるヤステの発生が確認されています。
- ▶咬んだり刺すことはありませんが、外壁や階段、道路を集団で移動し、扉の隙間などから室内に侵入してくるなど、日常生活に大きな不快感を与えています。
- ▶ヤステの大量発生については、全国的にも抜本的な解決策が見つかっていません。
- ▶今後に備え、皆さんのご協力で対策できることをお知らせします。



ヤステが集団移動している様子

▼集団移動防止対策（生息地から居住地域への移動を防止する）

環境整備

▶草刈りや落葉の除去を行う

- ・ヤステは落葉などが堆積して湿度が高く日光の当たらない場所を好みます。草刈りや落葉を除去するなど、暗く湿った場所を作らないようにしましょう。また、幼虫期（4～6月）に合わせた下草の除去や土壤の掘り起こしなどで日当たりをよくすることも効果的です。

▶側溝を清掃する

- ・側溝は周辺も含めて清掃を徹底し、ヤステが入りこまないようにしましょう。雨水と一緒にヤステが移動しないようにすることも大切です。

侵入防止

▶壁面に滑る材質のものを貼り付ける

- ・養生テープ、アルミテープ、ステンレス材など、滑りやすい材質のものを塀や壁に貼り付けると効果的です。滑ってヤステが登れなくなります。
※テープをはがす際は、粘着跡や塗装のはがれに注意してください。

▶扉などの隙間をふさぐ

- ・屋内への侵入を防ぐため、隙間テープなどを貼ることも効果的です。

▶薬剤を使用する

- ・侵入されたくないところだけに帯状に撒くと効果があると言われています。ただし、近隣の農耕地や河川、用水路（側溝）に薬剤が入らないように注意してください。

※農耕地は、農薬取締法により登録のある農薬以外は使用できません。

※薬剤の使用は、一時的に効果があっても、やがて効きにくくなる（耐性が生じる）ことがあります。また、人や動植物への影響も懸念されます。やむを得ず使用する場合は、**使用上の注意をよく読んでご使用ください。**



例：壁面に養生テープを貼付け



例：階段に養生テープを貼付け



例：テープで扉の隙間埋め

▼広域分散防止対策（生息地の拡大を防止する）

土壌などの移動の管理

►土や落ち葉などの移動に注意する

- ・生息地域の拡大は、土、堆肥、植木などの移動時に、ヤステの卵や幼虫などが付いてくる人為的な要因が最も大きいと考えられています。
- ・発生地の土などの移動は、生息地域の拡大につながるので注意しましょう。

▼ヤステの大量発生を見つけた時は...

除去

►ほうきなどではたき落として集める

- ・ほうきなどではたくと、一時的に丸くなって集めやすくなります。集めたらごみ袋にまとめて、漏れ出ないようにきつく縛ります。
- ・ごみ袋に入れた状態で日光に当てておくと、自ら分泌する毒で自滅します。また、ごみ袋に薬剤を入れることも効果的です。

処分

►「燃やせるごみ」として処分する

- ・死滅後に、そのまま「燃やせるごみ」として処分してください。

▼参考① ヤステとは？

►湿度の高い草地や落葉の多い土壌、道端の側溝など、日光の当たらない湿った場所を好みます。

►人体や農作物に影響を与える虫ではありませんが、不快感を与える不快害虫として知られています。

►強い刺激を与える（焼却しようとしたり、熱湯をかけたりする）と悪臭ガスを放出するので十分に注意してください。

►長崎市内で発生しているヤステは、台湾原産の外来生物「ヤンバルトサカヤステ」だと考えられます。

繁殖能力が非常に高く、一度定着してしまうと根絶することは非常に困難とされています。



ヤンバルトサカヤステ

▼参考② ヤンバルトサカヤステの生態

►寿命は1年程度で、卵→幼虫→亜成体→成虫と脱皮を繰り返しながら成長します。

►成虫の体色は褐色で、淡褐色と濃褐色の縞模様があり、在来種のヤステよりも大型です。

►交尾期は晩秋ごろで、その後1か月程度で1度に数百個も産卵し、8日程度でふ化します。

►集団移動をする時期は年2回あります。

4～6月（幼虫）と10～11月（成虫）です。
湿度の高い雨上がりの夜によくみられます。

